

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-107
研究課題名 - 乳癌サブタイプにおけるステロイド代謝経路解析
研究期間 西暦 2014年06月（倫理委員会承認後）～ 2019年05月
対象材料 x 病理材料（対象臓器名 - 乳癌 ） x 生検材料（対象臓器名 - 乳癌 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間 西暦 1990年 1月～ 2014年 5月
意義、目的 乳癌は様々な性質を有する腫瘍であり、悪性度や治療効果などの判定は病理組織学的評価、エストロゲン・プロゲステロン受容体、HER2受容体の発現度などで判定される。一方、アロマターゼ阻害剤などがその治療に用いられよう、乳癌組織内でのステロイドホルモン産生・代謝は癌の進展に大きな役割を果たしている。よって、本研究では乳癌組織内での様々なステロイドホルモンの同定を行い、予後予測因子等の新しいバイオマーカーの確立を目的とする。
方法 A. 検体採取 東北大学病院にて1990年1月～2014年5月の期間、乳癌と診断され同じ病院にて乳癌切除術を受けた患者から採取された手術検体を対象とする。検体は、凍結生組織ですでに東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野に保存されたもの、および東北大学病院病理部で保管されたパラフィンブロックを用いる。検体使用の際は、個人情報保護などに十分努める。  B. 実験方法  1. Aの検体のうち凍結生組織(10mg大)を共同研究参加施設に送付し、質量分析装置でエストロゲン、アンドロゲン、プロゲステロン、ミネラルコルチコイド、グルココルチコイドを含む各種ステロイドホルモンの乳癌組織中濃度を測定する。  2. 上記1で得られた結果を東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野に送付してもらい、同一検体での免疫染色によるエストロゲン、プロゲステロン、HER2受容体の発現度を含む臨床病理学的因子との相関をみる。免疫染色は、Aのうちパラフィンブロックを用いて東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野で行う。  3. 東北大で連結可能匿名化を行い、個人を特定しうる情報の提供は一切行われず、解析に最低限必要なデータのみとする。なお、個人を特定しうる情報は、東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野内のインターネットを切断したPCに連結表を保管する形で行う。

4. 遺伝子検索は行わない。

なお、検体使用にあたっては対象者の同意を得ることが困難であるので、研究の実施について病理材料等の利用目的を含む情報を公開し、研究対象者となることを拒否できるようにする(東北大学医学部ホームページ)。個人情報の管理は厳重に行う(柴原裕紀子)。

問い合わせ・苦情等の窓口

マクナマラ キーラー

東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野

宮城県仙台市青葉区星陵町2番1号

TEL 022-717-8050

[kmcnamara@patholo2.med.tohoku.ac.jp](mailto:kmcnamara@patholo2.med.tohoku.ac.jp)